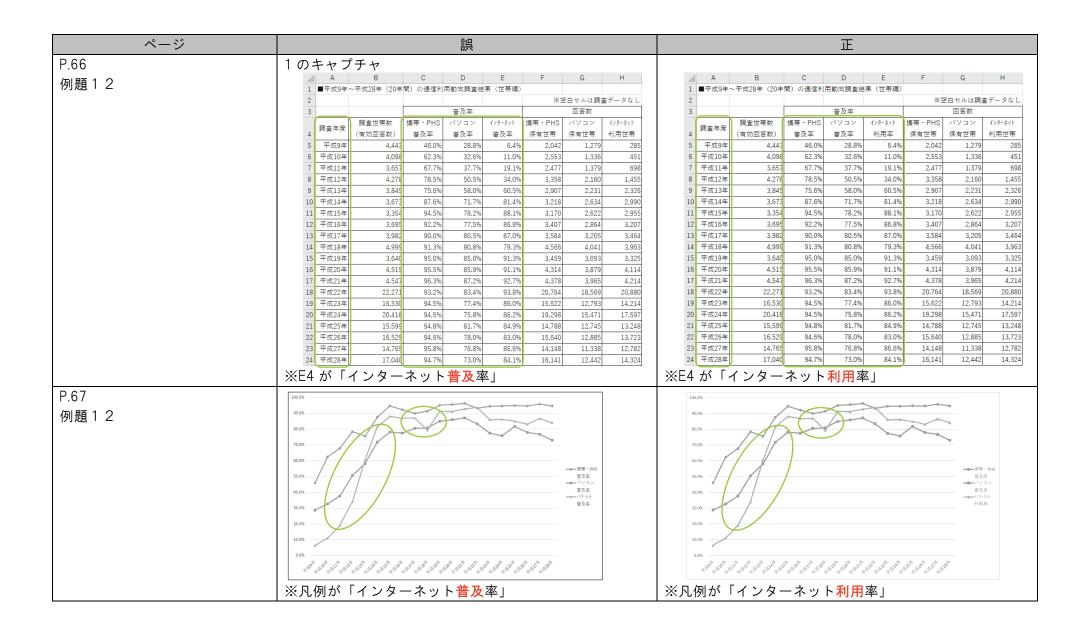


各 位

「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」に誤りがありました。 謹んでお詫び申し上げますとともに、誠にお手数ですがご訂正の程よろしくお願い申し上げます。

ページ	誤	正
P.5	えきから時刻表	駅探
1) 便利に使えるサイト	http://www.ekikara.jp/	https://ekitan.com/
	※「えきから時刻表」が、2019 年 3 月 29 日をもってサ	·
	- · · · -	
	│ 一ビスを終了したため、リンク切れとなっております。	
	右記「駅探」に変更をお願いいたします。	
P.64	4のキャプチャ	
例題 1 1	A B C D E	A B C D E
1/1/KE 1 1	1 ■平成9年~平成28年(20年間)の通信利用動向調査結果(世帯編)	1 ■平成9年~平成28年(20年間)の通信利用動向調査結果(世帯編)
	3 世帯普及率	3 世帯普及率
	調査年度 調査世帯数 埋帯・PHS パソコン インダーネット	調査年度 調査世帯数 推案・PHS パソコン パターシット
	(有効回答数) 普及率 普及率	4 (有効回答数)
	5 平成9年 4,443 46.0% 28.8% 6.4%	5 平成9年 4,443 46.0% 28.8% 6.4%
	6 平成10年 4,098 62.3% 32.6% 11.0%	6 平成10年 4,098 62.3% 32.6% 11.0%
	7 平成11年 3,657 67.7% 37.7% 19.1% P 平成12年 4.278 78.5% 50.5% 34.0%	7 平成11年 3,657 67.7% 37.7% 19.1% 8 平成12年 4,278 78.5% 50.5% 34.0%
	9 平成13年 3,845 75.6% 58.0% 60.5%	9 平成13年 3,845 75.6% 58.0% 60.5%
	10 平成14年 3,673 87.6% 71.7% 81.4%	10 平成14年 3,673 87.6% 71.7% 81.4%
	11 平成15年 3,354 94.5% 78.2% 88.1%	11 平成15年 3,354 94.5% 78.2% 88.1%
	12 平成16年 3,695 92.2% 77.5% 86.8%	12 平成16年 3,695 92.2% 77.5% 86.8%
	13 平成17年 3,982 90.0% 80.5% 87.0%	13 平成17年 3,982 90.0% 80.5% 87.0%
	14 平成18年 4,999 91.3% 80.8% 79.3%	14 平成18年 4,999 91.3% 80.8% 79.3%
	15 平成19年 3,640 95.0% 85.0% 91.3%	15 平成19年 3,640 95.0% 85.0% 91.3%
	16 平成20年 4,515 95.5% 85.9% 91.1% 17 平成21年 4,547 96.3% 87.2% 92.7%	16 平成20年 4,515 95.5% 85.9% 91.1% 17 平成21年 4,547 96.3% 87.2% 92.7%
	18 平成22年 22.271 93.2% 83.4% 93.8%	18 平成22年 22,271 93.2% 83.4% 93.8%
	19 平成23年 16,530 94.5% 77.4% 86.0%	19 平成23年 16,530 94.5% 77.4% 86.0%
	20 平成24年 20.418 94.5% 75.8% 86.2%	20 平成24年 20,418 94.5% 75.8% 86.2%
	21 平成25年 15,599 94.8% 81.7% 84.9%	21 平成25年 15,599 94.8% 81.7% 84.9%
	22 平成26年 16,529 94.6% 78.0% 83.0%	22 平成26年 16,529 94.6% 78.0% 83.0%
	23 平成27年 14,765 95.8% 76.8% 86.6%	23 平成27年 14,765 95.8% 76.8% 86.6%
	24 平成28年 17,040 94.7% 73.0% 84.1%	24 平成28年 17,040 94.7% 73.0% 84.1%
	※E4 が「インターネット <mark>普及</mark> 率」	※E4 が「インターネット <mark>利用</mark> 率」







ページ	誤	正
P. 66	P. 62 の例題 10 から、P. 69 の例題 14 まで一連で行っている	分析演習のデータは、総務省の「通信利用動向調査」を元
例題 12 <特徴を探す>	に作成しています。	
◆平成 18 年にインターネット利	│その中の例題 12 では、データからグラフを作成し、データ	の特徴や傾向を見つけることを目的としております。特徴
用率が一時的に減少している	の例の一つとして「平成 18 年にインターネット利用率が一時的に減少している」ということをこのテキストでは取り	
	上げております。しかし、総務省による「平成 18 年 通信	利用動向調査報告書 世帯編」によると、「平成 17 年調査ま
	での数値と平成 18 年調査での数値では、集計方法等が異な	よるので比較には注意を要する。※」という旨が記載されて
	いることが判明しました。	
	比較に注意が必要なデータを、特徴の例に挙げることに関	して適切かどうかという議論もあるかとは存じますが、こ
	の課題の目的としてはデータの特徴を見つけることを主軸	に置いておりますので、平成 18 年のデータも見つかった特
	│徴の一つとしてご説明ください。また、P. 69 の例題 14 の	考察の検証時に、実はこのデータは比較に注意を要する旨
	を補足でご説明いただけたらと存じます。	
	※総務省「平成 18 年 通信利用動向調査報告書 世帯編」P. 5	
	http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/pdf/HR200600_	001.pdf



国立国会図書館オンラインのサービス開始にともない、「考える 伝える 分かちあう 情報活用力(第4版)」の下記ページに変更が生じました。 差し替えページを作成いたしましたので、差し替えの程よろしくお願い申し上げます。

ページ	変更箇所	
P.6	· NDL-OPAC を国立国会図書館(NDL)オンラインに変更	
2)図書館の OPAC を使った書籍	・国立国会図書館サーチを追加	
検索	・Webcat Plus の説明文の変更	

2) 図書館の OPAC を使った書籍検索

効率よく情報を収集するのに便利な Web サイトは、他にもたくさんあります。

ここでは図書館の **OPAC** (Online Public Access Catalog) を利用してみましょう。OPAC とは、図書館が所蔵する図書の目録をデータベース化し、インターネットなどを通じてオンラインで検索できるようにした**蔵書検索システム**のことです。

図書館で資料を探すには、実際に図書館に足を運んで本棚を自分で探す、司書などの図書館職員に相談して探してもらうなどの方法がありますが、手間や時間がかかってしまうこともあります。OPACを利用すれば、図書館に目的の資料があるかどうかや他に役立つ資料があるかを事前に確認できるので、効率よく資料を入手することができます。

《OPAC の例》

各図書館の OPAC	それぞれの図書館が提供する OPAC。図書館や運営組織の
(蔵書検索システム)	Web サイトなどからリンクされている場合が多い。
国立国会図書館(NDL) オンライン https://ndlonline.ndl.go.jp/	国立国会図書館(NDL)が提供する OPAC。国立国会図書館の所蔵資料および国立国会図書館で利用可能なデジタルコンテンツを検索できる。国会図書館では国内出版物の収集を行っているため、ほぼ全ての国内出版物を検索できることになる。
国立国会図書館サーチ http://iss.ndl.go.jp/	国立国会図書館(NDL)が提供する統合検索サービス。国立国会図書館をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できる。
Webcat Plus http://webcatplus.nii.ac.jp/	国立情報学研究所(NII)が提供。参加機関の所蔵資料の一致検索の他、連想検索といったユニークな検索手段も提供している。 また国立国会図書館サーチや日本の古本屋(古書データベース)などとも連携しており、幅広い検索ができる。

例題1

国立国会図書館が提供する横断検索システム「国立国会図書館サーチ(NDL Search)」を使って、タイトルに「情報検索」を含む、「図書館」が出版した書籍を検索してみましょう。

<手順>

- 1. ブラウザーを起動して、国立国会図書館サーチの Web サイト(http://iss.ndl.go.jp/)を開く
- 中央の〔詳細検索〕を クリックする



NOA SCHOOLING TEXT